

# 煤掃

萩原朔太郎

青空文庫



井桁古びた天井に

鼠の夢を驚かして

今朝年越しの煤拂ひ、

主人七兵衛いそいそと

店の小者を引具して

事に堪ふべく見えにけり。

さて若衆のいでたちや

奴冠りに筒袖の

半纏すがた意氣なるに

帯ぶや棕櫚の木竹箒、

事あり顔に見交して

物物しくも構へたり。

お花、梅吉、喜三郎

ことし十五の小性とて

娘お蝶がませぶりを

さげすみしたる様もなく

家代代の重寶を

そつと小縁に運ぶ哉。

要所、要所の手くばりも

あらましここにすみぬれば

手代が下知の一聲に

家臺やたいをゆする物音や

たまたま晝の閑寂に

庭の椿の落つる頃。

木遺男きやりをとこの勇者等も

仕事師ばらの援軍も  
いま力戦の眞<sup>まも</sup>最<sup>なか</sup>中<sup>か</sup>や  
たち上りたる、もうぢんの  
中に交りて一しきり  
陣鼓ときめく凄まじき。

煤の埃の中にして

捨松ここに思ふ様

老店の主人三代の<sup>しにせ</sup>

暖簾<sup>のれん</sup>をくぐる町人は

幾度同じ夢を見て

繰り返したる榮落に

街の繁華は見たるなり。

耳を聳する亂調に

入興ありたる舉ふるまひ動や

お竹つらつら思ふ様

こは夕暮を酒にして

主人あるじの笑を見んと也

忠義ぶりなる店の子が

賢かりける可笑しさよ。

一重筵の上にして

蒔繪の盆や草雙紙

さては廚の煤鍋が

入り亂れたる狂態を

水干やれし古雛の

こは狼藉ととがめずや。

庭狭きまでに散り亂れ

さしも竝びし家財等の

一つ一つに處えて

二度もとの店の中

帳場格子の間より

手習雙紙見る頃を。

宵の酒宴うたげの可笑しさよ

娘が運ぶ瓶子より

もるる灯影ほかけにかしこまる

左右さうの破顔を反り見て

七兵衛獨り忻忻たり。





# 青空文庫情報

底本：「萩原朔太郎全集 第三卷」筑摩書房

1977（昭和52）年5月30日初版第1刷発行

1986（昭和62）年12月10日補訂版第1刷発行

入力：kompass

校正：小林繁雄

2011年6月25日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

# 煤掃

萩原朔太郎

2020年 7月18日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>